

# 備陽史探訪

NO. 22

発行

備陽史探訪の会  
とくしゅう  
会員の声・こえ・koeの紹介

はじめに

前号でお知らせしました編集部では当会が今後より発展する為に必要な建設的な提言、課題について内容の原稿を募集しました。以下締切り日迄に届いた原稿を紹介させていただきます。編集部

特集  
「備陽史探訪の会の飛躍を願って」

「入会から今日まで」

阿部厚子

私が入会したのは昨年一月に吉田さんに、総社の鬼の城の見学を誘われ、それからです。その頃の私は福山に何年暮らしていても西も東も分らない自分に寂しい思いをしていました。鬼の城へは初対面の男

性ばかり十一人で向いました。車中では耳にしたことのない史の話がポンポンと出て来て、何とむずかしいグループに出来て来て来ました。か、後悔しきりです。日中は穏かな好天に恵れ、四吉の山道を歩いたおかげです。かり気分を良くし、朝の心配など忘れて自然と人間のすばらしい出会いに感謝した一日でした。それから今日迄いろいろな行事に参加して来ました。部会の学習会にも出席して来ました。私には地図を片手に道の続くかぎり歩いて見た方が性に合っている様に思える今頃です。でも若者達が県命に備後、備中史を研究している熱心さが好きです。史を研究している事は分らなくても

(2) 備陽史探訪

1984年11月11日

新しい土地と空と地の人、同行した人達との会話の中にいろいろと教わる事が多いのです。グループの良さも最高です。会買が喜んで下さればと、骨身をおしままず会の為に奔走なさる会長、どんどん引っぱって行く副会長、気くばりと精密さの会計さん、毎月の例会には事前は何度となく現地を尋ねて下調べ資料集め、当日の説明と万全の計画をして下さる例会委員の人達、皆様に頭が下ります。から百三十人を越える会員になる迄には、何度となく行われた話し合いも大切な節目だと思ひます。まず自分の健康に注意し、中学生から八十才の方達まで出合いを大切にし、少しづつ史をとり入れ、歩き、会報で教えてもらう民話と

共に子守歌の口ずさめるおばあちゃんになりたいたいと思ひます。会の仕事でしたら何でも言いつけて下さい。あまり役立たない私ですが楽しみに出掛けて行きます。そしていつの日か、同じ場所に何回何十回と旅しても決して全てを見たような気がしない。その魅力の奥深さが、その歴史の長さ、に匹敵するかのよう。自分の好きな町を見つけてるまで。

(編集部より)紙面の都合で一部分カットさせて頂いた頂きました。御承解のほど。

例会と談話会の運営について

立石雪男

先般十月の評議会でも種本さんから文書で教点提起されました。

そのうちのひとつ。現在例会及び談話会は各月毎に独自の場所やテーマを設定して運営しておりますので

(3) 備陽史探訪

1984年11月11日

前月及び次月のテーマと直接の  
 絡がない。これでは学習や経験の  
 系統性、集中性が保たれず内容の  
 積み上げが難しい。できれば一定  
 期間例えは来年は一年間「山陽地方  
 の源平の史跡を巡る」というよう  
 にして年間計画を立てて各月に振  
 り割り、前月に談話会でやっては  
 翌月例会で現地へ行くといったサ  
 イクルを繰り返すことにより、現  
 在の方式よりもはるかに多くの学  
 習効果が期待できるのではないかと  
 しておられます。他にもいくつか  
 かのテーマを例としてあげておら  
 れます。

ここの事は今までにも他の  
 会員からも出されていたように思  
 いますし、確かに卓見だと思いま  
 す。その可否についてぜひ評議  
 会で前向きに討議して見るべきだ  
 ろうと思います。

問題は、テーマの設定と実行につ  
 いて具体的な手だてをどうするのか  
 ということが課題になります。運営  
 のすべては評議会決定することに  
 なっています。①計画の原案しかな  
 い細案が必要ですが、誰が提出す  
 るのか②会員の意志をどのようにし  
 て問うのか③談話会の講師が計画に  
 したか④得られるのか④各月の例  
 会担当者の配分の問題⑤やり方によ  
 っては会員数が漸減することも考え  
 られる⑥系統性一点張りではなくトピ  
 ック的な方法にも面白さがあること  
 考へる人もあるのではないかと考  
 える人もあります。

テーマにするか事柄をテーマにする  
 か等いろいろ問題があります。



つれづれ想うこと

佐藤 一夫

ことを書いてみる。

歴史研究を目的とする会である  
なら、会に参加するメンバーが歴史  
史へ研究・事象をとおして何を  
得たいのか、また得ようとするの  
か目的を明らかにし、それに賛同  
する者のみが発員であるべきだ。

いつも書いていることだが、暇人の  
時間つぶしのための活動になって  
いないか。隔週の行事に参加して  
る会員は何を得て帰られていくの  
だろうか。

それゆえ、歴史研究を目的とする  
会であるなら、当会の趣旨を今一度  
確認し、会員各自の目的意識と合  
致するかどうか個々に検証すべ  
であると思う。

それに、当会の力量を正確に把握  
できていないのだから、首がいたく  
なるほど背伸びはしていないだろう  
か。ツマ先立ちには、非常に不安定で  
同じ目的を持つた人との歴史研究  
は難しいし、自分の為になることだ  
が、自分の貴重な時間を削いでまで  
アラスにならないう行事は対応できな  
い。お互いマイナスを避けよう。

個々の考えもあり、基本的なもの  
の見方に相違する人との論議は時  
間の無駄だし第一不愉快だ。仲  
良し「クラス」は流行らない。  
さて、右のように考えている私  
からみて当会の状況について想う

編集部の依頼文にあった、鋭い  
意見を替わらず会報・行  
要なのではなく、何も替わらず会報・行  
要なのではないか？

1984年11月11日

(5) 備陽史探訪

満足してしているのだ。

備陽史探訪の会に入会して早  
 一年半になる。昨年度は会の行  
 事には大いに参加し学ぶ事が多  
 くあった。今年も六月以後仕事  
 の講演と会の行事が重なる事は  
 かりで参加出来ずまことに残念  
 なのである。この会に入ってから  
 は大変満足をしてゐる。例会、  
 談話会、その他、の会前等に参加  
 し皆林の境を聞き且おもしろくやバ  
 るけれど家と師へても当然はギキ  
 ゲンなのだ。特に行事の飲んだ  
 後好きな方々と酒をたしなみ又  
 者会館の酒飲会などか分らな  
 く日るが何れともあれ楽しみの  
 だ。だから不満なんて無いのだ  
 だ。私が私には、せいと悲しい事  
 がある。城郭、古蹟、歴史民俗  
 等の勉強会に、仕事と都合と

時間の関係で参加出来ないので。  
 勉強好きは？私にと、て本当に感  
 念に思っているのだ。さて私も又  
 来年には皆林と一所に三原市の史  
 跡を案内したいと考えておりました  
 新高山域の表市のある宗光寺、小  
 早川一旗の墓所、そして仏廻り等  
 いかゞでしようか、少しづつ準備  
 をしていきたいと考えておりました  
 もうひとつ、街道を歩くというの  
 はどうですか。例之が、古代、中  
 世、近世の山陽道と水と交わると  
 する史跡、野伝、辻堂等と観て歩  
 面白いのではと考えています。  
 何れともあれ私が会館歴史の好き  
 な人の集りで各自の企画をもちよ  
 り採擷してひとづつ実行してい  
 りたいです。とつとつとつとつと  
 がたくなる。たつとつとつとつと  
 末森清司

我 想 I

焼酎 カ

静寂なるパンツ池の畔に座し  
 述々と思ふに閉鎖的な歴史研究団体  
 の為い中で、当会ほど開放的かつ  
 活動的な歴史研究団体は少ない  
 ろう。それは歴史を愛好する人  
 にとりては非常な魅力であり、  
 はばく魅力そのものが当会の持  
 質ともなっている存である。  
 ところが、直実そうである。  
 内容的にも一つ一つくりな  
 点がありはらないだらうか。私  
 当会の会員・非会員あるいは  
 事に参加してはなれた人々との  
 溝が在りないのでないかとい  
 うのは、例に一方の談話  
 といふのは、例に一方の談話  
 といふのは、例に一方の談話  
 といふのは、例に一方の談話  
 といふのは、例に一方の談話

於てである。この様な形式を  
 てゆくとして、この様な形式を  
 の虚しさを感じて切なくなつて  
 う。表面的な対話で手をつな  
 ても意味はうすくも、と深い部  
 でのいかには歴史を通りて話  
 柔らかなといふ身の方が重  
 ないだらうかといふ気がし  
 い。その中で、誤話合に  
 向の羊合くくいと裂いて、私  
 合のその日の一に二に三に  
 又、例に於いては、誤話合  
 ては、その誤話合に於いては  
 身近な理由を以て訪れ、と  
 身を固く理由を以て訪れ、と  
 柱と持たせては、どうも、私

1984年11月11日

(7) 備陽史探訪

60年を振り返って

吉田 和隆

今年には備後とその周辺の古代史に迫ろう。活動を方針とし、併せて見ると、会の内部充実の年にする事を年頭に決議して始まった。行事は史跡探訪、講演会、談話会を各三回、市民向け行事二回、旅行一回の計十二回を計画した。そして、行事の旨は、今年の方針に沿った古代を扱い、残りを他の時代とする事とした。

先ず講演会は、私本清張氏に市民会館大ホールで、邪馬台国の位置と題して講演して貰った。遠く山陰や広島からも聴衆が詰めかけ、入れないう人も出た。残り二回は、備後地方の古墳、福山藩の新田開巻の題で、小ホールで地元の研究者に話して戴いた。又、この他に特別行事と称して、若下志麻主演の軍弥呼を見た。談話会は、青年の家で三回、古代

人の暮らし、日本の古代と世界の古代、関ヶ原の合戦を行なった。史跡探訪は三次地方の古墳群を

三島の水軍遺跡を見る。の三回を、一泊旅行は、畿内の巨大古墳を見る。と題して、奈良と大阪に行った。

市民向けの行事は、三回目の親子の古墳巡りを吉備で行ない、又昔の旅を再現する。と題して山陽路を歩いた。後者は、初の試みで、草鞋を履いたり、駕籠を作ったり、乗ったり、当時の携行食を再現したりもして、好評だった。

毎年刊行の本は、今年度は「古代の備後地方」を出版。古墳部会の二年の研究成果と、会員から呼ばれた古代史の論文、紀行、類文をのせた。今年には内部充実の為、行事は会員に案内を出すにとどめ、市民にPRはしななかった。参加は、夫が、会員の親密感に深まったように思う。

(8) 備陽史探訪

1984年11月11日

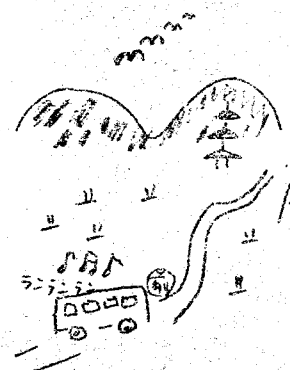
「気づいたこと」

（匿名希望）

毎月一度のバスなどによる例会は誠に当を得た備陽史探訪の会にふさわしい目玉商品と云える。その目玉商品を披露するに至る過程では、それを企画して事前に下見の調査を行ない用意万端整える説明者にその苦勞をねぎらって余りあろう。

いつもの日か三和町、神石町、東城町方面に向いた例会の折、説明者が当該地区での実地踏査にごまらず深く関連する大分県中津市にまで足をのばし資料調査に当られたことを聞くに及んで頭の下がる思いがした次第です。それは特に例会のバス車中で遭遇するこのが多くの担当者の説明を無視するかのような参加者のマナーに

ついてちよびり指適したい。担当者の説明中は勝手な私語を止めよう。担当者に失敬な行為である上、説明に聞き入る周辺の参加者を妨害することにもつながらている。更に例会は会員外の参加者も居られるが、私が知る限りマナーに欠ける参加者は、いつもの例会でも備探の会に對する理解が乏しい等の会員外参加者でないようだった。以上。いささか釈迦に説法した形にな。たかな。限定された字数の中では、ともすれば直入型となり、それが辛辣な文面になつたことはお許し願いたい。



マナーをまきまきして  
楽しい史跡めぐり



会報編集委員の見解

始めのこととしておきたりが今回の特集は全  
 の会員に向けての発言が依頼されたのだ。私達  
 が欲したのはたまたまとて目新しくなくとも  
 たいと文章としてまとまりがなかるうとも個々の  
 会員が会対して抱いている餅り気のない心構の  
 発露であったのだが、それはついに一通も寄せら  
 れることなかった。今回ここに載せてある文章は  
 全て編集部から個人的に逆依頼したもので必然的  
 になりつものメンバーということになり、当初  
 の企画から想えば大きな後退であることはゆい  
 どもない。どういつた意味で「原稿依頼する相手  
 が違うだろうが」という佐藤一夫君の指摘は全く  
 正しい。しかし我々としたところご大体何を書い  
 てくるか予想のつく常連の文章なんか編集してこ  
 も、まるご面白くないこともゆいまでもない。

さて当会はこの回教対にわたる「評議会」を  
 開き、会のあるべき姿、活動方針について話し合  
 ってきた。ここによせられた原稿は全部見たわけ  
 ではないがおおむねこの評議会の討論をふまえて  
 書かれているので一般の読者には唐突の印象を与  
 えるものと思う。そこをあえて「説明」という地  
 足を加えよると共に編集部自体の逆提案を行うこと  
 とした。

(編集)

まず内題となったのは「例会・談話会」の「局  
 である。例会には過去・現在・未来をわたって  
 当会の最も重要な行事である。しかしそれは果し  
 て現在・過去の「理念」を説くものではない

270 会報編集委員の見解

るであろうか。このことについては立石晋夫さん  
 山口哲晶(おー)と。焼酎・カ・ゴメン  
 君の文章がふりかかっている。例会とは実際に歴史現場  
 を自身の足で踏み遺跡や遺物にふれることご自ら  
 の歴史的想像力をふくらませるためである。だが  
 らこれ程すばらしい意味のある例会は度々出席さ  
 せてもつづける私などはもう相当エラくなつてい  
 る以上のもので、実際には「ただ見ただけ」とい  
 う以上のもので何も残っていない。ここに手問  
 かけながら遺跡遺物歴史総体は少しも追いついて  
 い当会の例会の弱さがある。「見るべきものが何  
 もない」のではなくて「見るべきものを見い出す  
 力量がない」のだ。この懸念を断つたは、食中し  
 た事前講習と現場を様々な専門分野から多角的に  
 眺めること、そして「これだけはつかんで帰って  
 ほしい」という自身の主張を持つことである。こ  
 のことは必然的に現在の例会の担当のあり方や観  
 念の性格にも見直しを要求するだろう。

これらのことをふまえて当会は両極端の評価を  
 下しているのが、本森清司さんと佐藤一夫君であ  
 る。本森さんの場合、この人は会報編集部がどの  
 ような意見を求めているか承知した上であえて逆  
 のことを言っていると思われ、フシがある。全く  
 「困ったちゃん」なのだ。めっ!! それと対照的  
 なのが佐藤君で、「歯に衣を着せぬ」という形勢はあ  
 るが、この人の場合、「歯に衣を着せる衣」があつたら  
 ば、つてあげたいような気持ちである。よくまあ、行  
 びて行言、これに堪えますなあ。でもこの人は厳しいこ  
 とを言つたのは根は意外と「善人」なの(北原へ)

新聞からの歴史記事

8月

1984年11月1日

2日 府中市栗栖麿寺の発掘調査が始まる。奈良時代代の布目平瓦片と焼土層を確認。(朝、3日読、8日山、四隔突出型模土器発見。古代出土の大首土器(朝)

3日 滋賀県大津市穴太麿寺の金堂は、全国で3例目の山田寺式建築方法。(朝) 倉敷市阿津走出達跡で縄文後と晩期の花崗岩製の石皿にくぼみを発見。(読)

4日 新市町尾布古塚、地方には珍しい八角塚か? 列石群を発見。(読、8日山、4日朝)

5日 大阪府柏原市青谷麿寺は、幻の竹原赤行宮跡か? (朝)

訪 10日 奈良県宇陀郡樟原町上井足の谷達跡で、奈良時代中期後半の木製品が少量に出土。(読、朝、読) 島根県美川郡斐川町の荒神谷達跡で祭壇と民家の跡をテラス状に発見。及び、銅剣が知本、四例に新赤さやんの産、古墳時代初期の木製赤土等30点を発見。又、竹の刻印が入る。出雲王権の素行、後治の呪文の刻印も発見。(朝、8日読、8日朝、読、8日山、8日朝) 11日 奈良県谷達跡で古墳中期の谷川を横断していたと見られる橋遺構発見。(朝、読)

11日 語り伝えた(山の神)

15日 島根県の西谷上段遺跡、日本海側で最大の四隔突出型模土器発見。古代出土の大首土器(朝)

16日 賀茂郡大和町大草で畑から室町時代の山崎跡を発見。珍しい銅製仏具花瓶等も出土。史跡保存されず土器と共に削平される。(中)

17日 長厚県城崎町のケゴヤ古塚で、漆が付着した金箔片を少量に出土。(読、8日朝、中、山)

21日 尾道市浦崎町満越の製塩遺跡、おが田で製法を判明。(朝、中、山、22日読)

21日 京都府野田川市高浪古塚で玄室の奥室に後か付き、祭壇付きの横穴式石室か? (朝) 28日 岡山市の鹿田遺跡(存在し近世で跡生時代の赤さやんの産、古墳時代初期の木製赤土等30点を発見。又、竹の刻印が入る。出雲王権の素行、後治の呪文の刻印も発見。(朝、8日読、8日朝、読、8日山、8日朝) 31日 奈良県谷達跡で古墳中期の谷川を横断していたと見られる橋遺構発見。(朝、読)

1984年11月11日

(11) 備陽史探訪

9月

2日 朝鮮使節の絵巻、3巻207、享保、初めて  
の年代明記。(朝、説)  
福山市駅家町石鏡樹現遺跡方跡生後期の大集室  
と判明。住居、倉庫跡 9棟、珍しい土壌(土金  
見)。(説)

3日 千葉県佐倉市吉見台遺跡で、縄文後期の大  
縄穴住居16x19mの円形で、共同集会所か？(朝、説)

4日 奈良県生駒郡平群町で、平群氏の古墳(中山)

5日 丹波山上山城遺構、神城知多幕府築く(朝、説)

8日 川尻町光明寺で縄文発見。多様なエビソ  
ト、門徒の動静と知る資料。(朝、説)

9日 イギリスで、ストーンヘンジより4千年以  
上も古い巨石遺構と湖底より発見。(朝、説)

10日 鳥根県美保町で能登式製塩釜発見。(朝)

15日 グアテマラで古代マヤ文明(600年前)の洞窟壁  
画発見。庶民の儀式描く。(朝、朝、朝、朝)

鳥取市生山古墳群の29号墳で5000年の壺穴式石  
室に縄文石棺納める。(朝、中、山)

14日 兵庫県播磨川町半田山古墳群でベンカラの  
残っていた遺構発見。(朝、説)

草戸千軒町遺跡で出土した木札がオオセの副葬品  
と全国で初めて確認。(朝、朝、朝、朝)

18日 日本とソ連にそっくりの鏡、四面鏡、四角  
足、つり穴、ソングラス族の文脈の裏付け。(朝、朝)

藤山原で1万4千年前(後期旧石器時代)のナイフ  
石器が年代確定層から出土。縄文の基準資料。(朝)

21日 福山市駅家町吉ヶ崎遺跡発掘、斜面を削り  
し、団地状に、弥生前期の縄穴式の長屋住居、大  
形土器等出土。淡水を避け高台へ。(朝、中、山)

22日 奈良県生駒郡分山下白遺跡で古墳築造遺構  
発見。(朝)

26日 彦根城、能舞台跡下、築城で囲む長方形  
の溝を築き、音響施設。(朝)

27日 大阪の美智寺遺跡で大規模な銅造遺跡、幻  
の工人河内銚物師の裏付け。(朝、中、山)

29日 蔵王原遺跡、史跡指定解除。開墾された遺跡  
すくなく行政の役割の跡。縄文後期から後方新石器  
文化オホソク文化大塚の影響が濃く、青銅製の帯金め  
出土。アムールの巫具の文化か？(朝)

朝例会に参加して

阿部厚子



朝例会の朝は、肌寒いものの、さわやかな秋空が  
広がっていました。一緒に参加する友達に、車に乗せ  
て貰って海岸線を走れば、行く手の海の上に、こん  
もりした仙酔島と、小さい軍艦のような弁天島が  
見え来ます。

集合時間より大分早く着いたのにバス俵には、  
お馴染みの顔が幾人も出迎えてくれました。じきに  
今日の講師の森さんが、ご主人の車で来ます。又  
れからはバスが着くことに、参加者の人波は大きく  
な、て行ききました。

今回の参加は四十人程で、徒歩で行く為三班に分  
かれて行動しました。最初の見学は対潮楼。座  
敷から眺める景色は、観光案内等でお馴染みの物  
とは善文、朝の仙酔島の緑の濃さ、流れる瀬と白い波  
を、行き交う船など、実物の持つ迫力で、新たな感  
動を与えてくれました。

この後大可島城跡、朝城跡、旧中村家、七郎落遺跡  
と見学、昼食は医王寺で食べました。医王寺の縁  
側から見る、秋の昼下りの朝は、のんびりした瀬  
戸内の渡町の表情を見せつけていました。この後山中  
鹿之助首塚、ささやき橋、沼名前神社、安国寺と  
巡り、四時に朝で解散しました。

さて、今回の森さんの講師ぶりは、大変好評  
でした。初めての講師役にもかかわらず、緊張も  
なく、大変わかり易い説明でした。又資料集も

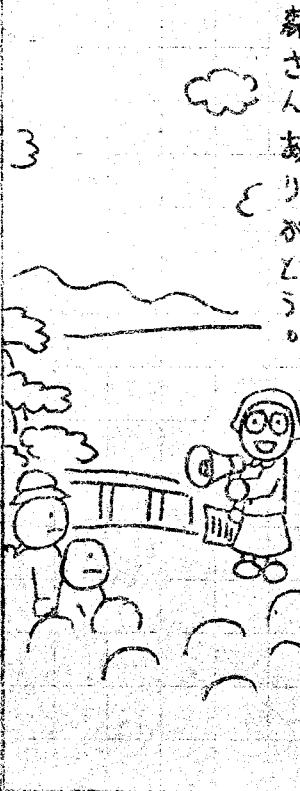
巻末に観光マップが付き、本文に挿画が入  
る等、細やかな心使いが各所に見られ、森さん  
の女性らしさがよくかかえました。

特に安国寺では、団体の観光客と一緒に  
なりました。森さんの説明をガイドさんと一緒に聞  
いてました。後でガイドさんが「お詳しいです  
ね。是非今度教えて下さい。」と話しかけて来  
て、資料を貰っていました。

森さんは事前に何度も病に下見に行き、  
又図書館で資料を読んで調べていました。  
そんな努力のお蔭で、こんな良い例会を経験  
させてくれたのだと思います。

ある人が、「歴史家だからあれだけできるん  
だよね」と感心していました。でも森さんは  
ごく普通の奥様なのです。その人が、これま  
での男性講師に勝るとも劣らない例会を  
遂行してくれました事は、私達女性にとって、嬉  
しくもあり、羨しくもあります。

これからも会の一員として活躍して下さい。  
森さんありがとう。



私と会



S.Y.より

私がこの会を知り、参加するようになったのは、五十七年春の、尾道例会の時からです。当時、市民病院で働いていた私は、同じ職場の阿部さんから「ね、一緒に行きな」と熱心に誘われ、「うん、映画にも行きたいし……」しかし、行き先が私の好きな尾道の町だったので、友達を誘って参加する事にしたのが始まりです。

その日は、生憎途中から雨が降り出し、右手に傘、左手に資料集という格好で、雨にも負けず風にも負けずで、坂の多い小道を登ったり降ったりしながら古寺を回りました。途中人数が三十人？と少かった為、途中で信号で列が遮ぎられて、後ろの人がはぐれてしまし、会の人がありました。るといってハディングもありました。

しんしんと降る雨の中でのお手は、ロマンチックで、日頃の事を忘れさせてくれ、とても楽しい一日でした。

それから、時間の許す限り（時々の方が強いかな？）参加させて貰うようになり、また、会を重ねる度に友達も増え、学生時代に習ったのが歴史だと思っていた私に、教科書どころか参考書にも出てこない郷土の人物、歴史を教えてくれ、歴史の広さ、深さ、面白さを認識しだした矢先に、結婚、妊娠と相成り、会から遠のき始めました。今日この頃ですが、子どもが大きくなり、理解できるようになったら、子連れ猿で、また参加したいと思っております。



古墳研究部会

城郭研究部会

部会だより へ9月・10月

◎ 遍照寺山城跡を踏査し  
 城郭研究部会では今シーズンの調査目標の遂行のため予備踏査を進めてゐるが、去10月6日(土) そのオ一回目として深安郡神辺町西中条の中世山城跡(遍照寺山城)の踏査を行なつた。結果は明らかでないが、続けてオ二回、オ三回目の踏査を行ない、目標を決定する予定。

◎ 正福寺裏山古墳の調査終了  
 古墳研究部会では9月から福山市加茂町の「正福寺裏山古墳」の奥別調査を行なつていたが、去10月7日 現地での調査を終えた。結果はまだ発表されてないが、調査自体は今後共に行ふとのことである。

歴史研

◎ 9月12日(水)夜 (青年の家) 参加12名  
 『お18回古墳講座』  
 テーマ 「今後の方針について」  
 ◎ 10月3日(水)夜 ( ) 参加11名  
 『お19回古墳講座』  
 テーマ 「府中市場の古墳」

◎ 9月26日(水)夜 (青年の家)  
 『お9月勉強会』  
 テーマ 「武家の天下草創」(神谷和孝)  
 ◎ 10月24日(水)夜 ( )  
 『お10月勉強会』  
 テーマ 「初期封建社会」 (栗田英夫)

今後の予定

◎ 11月25日(水)夜7時 (青年の家)  
 歴史研 『お11月勉強会』  
 ◎ 12月12日(水)夜7時 (青年の家)  
 『お20回古墳講座』  
 テーマ 「芦田川流域の主要古墳」

◎行事予定◎

カ24回歴史談話会

。時 11月25日(日)14時  
。所 市民会館カ24会室

・テーマ 「遠藤半蔵カ24」

。講師 福山城博物館友の会々長 平井隆夫氏

。会費 全費200円 一般300円

遠藤半蔵とは――

福山城主阿部正倫の家臣として藩主に認められてから急速に出せし、天明頃には藩財政の整理を擔い、藩主の厚い信任の元、福山城の財政再建に當り、才人物。しかしその方は百姓に対する収奪の強化一辺倒であったため、百姓の反発をまねき、天明六七年の「福山全藩一揆」(天明の一揆)の原因となった。(「福山史料」)

カ25回歴史談話会

。時 12月16日(日)14時(15時)市民会館  
。所 青年の家(お城のカ)和室

。テーマ 「赤穂浪士」

。発表者 参加者全員

カ26回歴史談話会

吉田左京亮和隆

「赤穂は島である。しかし眼の」例金は衆しい  
「どぶが深い」とは、噂の深見の「面白くも熱た  
まる」談話会をお勧めします。

「遠藤半蔵」の「赤穂浪士」可大忠臣蔵は「赤  
穂城新説」同時の群像の世評のです。四人の  
「赤穂浪士」の面から赤穂浪士を鏡く返り

ます。その後多岐をみる「どりゃどりゃ」と反論。  
やがて討論機を合りの発展の予感。

つまり一方の行を向かされる会ではなく、研  
究発表と討論をセットにした談話会とする計画な  
のです。討論の時間も確保してありますので、

出席の方は、次の四角から一つでも二つで  
も予習して、是非意見を聞かせたい。

一、松の部下の刀傷はなぜ起ったか。

二、赤穂浪士討入りは成功したか。

三、赤穂浪士はなぜ討入りできなかったか。

四、映画「テレビ」の討入り場面は本当なのか。

過去教を問の地獄を破り吉田和隆君が始め、  
ヤル気を見る。へ十二月日赤穂浪士といふ  
発想はなかなか容易なれど、「談話会」とは  
かざるものが、この大テーマを引いた付金の  
存亡を懸して繰り上げる一歩進進を、可一  
つと、これはまさしく歴史のワンダーラン  
気分はもう八切正天の世評に似て感じも衰  
し恥づかし嫉しのフライングボクサーマタツの  
左の目。翌年はへんぱへんぱなる吉田君のためた  
びひ貴方ヒトハが鏡いでや、て下さい。

(編集委員)

カ27回歴史談話会

は「福山藩天明一揆」の歴史を  
「行毒屋」との隣同ど御近所の一揆の「」を  
いてみる予感でしたが、まだ詳細が決まら  
ません。後日連絡いたします。

(↓)頁から続く)で余り気がしてはいけません。佐藤君の文章からいわれる「表現禁止用語」を取り除けてみると、意外と真面目なその相親が透けて見えるはずだ。「備陽史探訪」の念は何を目的としてやっているのかし、もう使い古された問いではあるが、いままだこれに答えたものはないのである。曰く、「自己の文化的生活の向上」曰く、「市民のアピール」。自己の「主体」というものがスッパリ抜け落ちた言葉ほど空虚なものはない。そしてこの様に主体と切り離された「歴史」を弄んでいる限り私達の向うどの様なせめぎ合いも生れようはずもない。これをして「仲良しクラブ」と言うのである。

何故に私等の会に参加した人達はまるごとリンゴで押しつぶされたか、語ってくれないのか。それは私等の会がそがやう答えて望んでいいると思われいているからだ。あの人達がそがやう期待を持って集つて来、またどおい、言葉にならぬ思いを抱いて帰ってゆくのか。そのことが汲みとれないなら私等は「歴史」の看板をおろさねばならぬ。歴史するとは「まる」ところ己れの人生を真向うこと以外ではありえないのだから。

★忘年会★  
忘年会は12月16日(日)午後6時から行われます。場所は未定。昼間の談話会に来た人だけ教えることになっていきます。(ウソ)

編集後記

船巡りも終り、今年の行事も残り少なくなつてきました。さて船巡りですが当日は15名もの参加者があり混雑も予想されたのですが、会員の皆様の御協力で事故も無くたいへんスムーズに終えることができました。

真鍋島や大飛鳥を見学し、また森本先生の詳しい説明も得て、水軍の生活や祭祀が海と密接に結びつていいることや、彼らが海を通じての中央文明とどの様につながっていたかということが良く理解できました。ようと思われれます。皆様の感想はいかがでしょう。(七森)

この七森君も言っております。感想や意見はどしどし会報の方へお寄せ下さい。  
720 福山市川口町398 榎本 実・宛